

学校法人滋慶学園 東京福祉専門学校 学校関係者評価委員会 自己点検・自己評価 評価表

【令和8年5月15日実施】

令和7年度自己点検自己評価(令和7年4月1日～令和8年3月31日)による

自己点検・評価項目	自己評価	自己点検・評価項目 総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
	優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
基準1 教育理念・目的・目標と職業教育のマネジメント					
小項目1-1 教育理念、目的及び目標の設定等					
1-1-1 教育理念等を踏まえ、当該専門学校として、目的及び目標を設定し、学科ごとに育成する人材像を明確にしていること。	3	本校では、教育理念・目的・育成人材像を明確に定め、教育活動全体の基盤としている。これらは教育指導要領や学生便覧等に明記され、教職員および学生に周知されている。 また、教育理念と各学科の教育目標・養成人材像との整合性が図られており、入学者受入方針、教育課程編成・実施方針、卒業認定方針のいわゆる「3つのポリシー」との関連も明確化されている。 さらに、教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会を通じて、業界・地域・卒業生等の意見を反映し、社会環境の変化に応じた見直しを継続的にを行っている。	<長所> ・教育理念および育成人材像が体系的に整備されている ・外部委員会を活用し、業界ニーズを教育に反映できている ・3つのポリシーとの整合性が確保されている <課題> ・社会環境(AI・DX・福祉ニーズ)の変化に対し、見直しのスピードをさらに高める必要がある <解決策> ・教育理念・人材像の見直しサイクルを短期化し、社会ニーズへの即応性を高める ・AI・デジタル分野等の新たな社会的要請を踏まえた人材像の再定義を進める ・外部委員会の活用頻度・質を向上させ、より実践的な改善につなげる	③・2・1	・教育理念を踏まえた目的や育成人材像が教職員や学生に周知されていて素晴らしいと思います。 ・AI活用について授業で取り入れるなど、社会に出てから対応力も向上すると考えます。そのような取り組みを評価します。 海外の学生が多くなる中、受け入れに対して柔軟な対応ができていると思います。 ・食事会で同席させていただいた教員から、東福卒業生で教員として戻ってきたが、とてもいい学校になっていた。と笑顔で話されていた。様々な意見があるが元学生だった方がいのであれば、学校運営が良い方向に進んでいるのではないかと感じました。 ・今後より高齢化、少子化となり人材も限られていく中では一層業界との連携や自治体への協力に注力頂き、社会に貢献できる学校になっていただけることを期待しています。
小項目1-2 職業教育のマネジメント体制の整備					
1-2-1 職業教育を推進(教育の企画・設計・運用、検証及び改善・向上等)するために必要なマネジメント体制を整備し、有効に機能していること。	3	本校では、教育活動を推進するためのマネジメント体制として、建学の理念、事業計画、組織体制、意思決定システム等を整備している。 教育活動に関する意思決定は、各種会議体を通じて行われ、事業計画に基づいた運営がなされている。また、教育の質向上に向けて、各部署が連携しながら改善活動を実施している。 さらに、自己点検・自己評価を毎年度実施し、その結果をもとに改善活動を行うPDCAサイクルが機能している。	<長所> ・事業計画に基づく体系的な運営が確立されている ・意思決定プロセスおよび組織体制が明確である ・自己点検・評価による改善サイクルが定着している <課題> ・部門間連携のさらなる強化が必要 ・留学生増加など環境変化への柔軟な対応力の向上 <解決策> ・横断的な会議体の活用により、部門間の情報共有と連携を強化する ・データに基づく教育改善(学修成果・退学率等)の可視化を推進する ・留学生対応を含む教育マネジメントの高度化を図る	③・2・1	・課題に対して、職員間でアイデア出しの研修をしたりと様々な取り組みをしながら取り組まれている。教員の声が上がやすく、それが組織力の向上につながっていると思います。
基準2 教育課程、教育の実施、学修成果					
小項目2-1 教育課程の編成と授業科目					
					・実習等を通して事業所を訪問して様々な関係機関から情報を得て教育課程の編成や授業科目の改善につながっていると思います

<p>2-1-1 学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成・実施方針を定め、方針に基づき、必要な授業科目を体系的・段階的に配置した教育課程を編成していること。</p>	<p>3</p>	<p>教育課程は、教育理念および育成人材像を踏まえ、体系的・段階的に編成されている。授業科目は基礎から応用へと段階的に配置され、専門職として必要な知識・技術の習得を可能とする構成となっている。 また、教育課程編成委員会を設置し、業界関係者等の意見を取り入れながら教育課程の見直しを行っている。</p>	<p><長所> 体系的かつ段階的な教育課程編成がなされている。 業界の意見を反映した実践的なカリキュラムとなっている。 <課題> 変化する業界ニーズへの迅速な対応。 留学生対応を含めたカリキュラムの柔軟性向上。 <解決策> 教育課程編成委員会の機能強化による迅速なカリキュラム改訂。 デジタル・ICT教育のさらなる導入。 留学生向け教育内容の充実。</p>		<p>にっはかつしているこいまり。</p> <p>・海外学生が増加する中、授業方法、カリキュラムにも工夫されていると思います。地域高齢者との交流なども日本の高齢者、地域を知る意味でも有意義な活動の一つだと思います。</p> <p>・教育課程編成委員を設置し、業界関係者の意見を取り入れながらニーズに対応した教育課程の見直しを行っている。</p>
<p>2-1-2 教育課程編成のために、教職員及び企業等の役職員その他の委員により組織する教育課程編成委員会等を設置し、年2回以上開催していること。 【職業実践専門課程】</p>	<p>3</p>	<p>産業界、地域社会に関する方々を学校関係者評価委員として依頼し、学校関係者評価委員会にて、ご意見をいただいている。 同時に教育課程編成委員会を編成し、年2回開催。実践報告とご意見を頂戴し、カリキュラムに反映させている。</p>	<p><長所> 定期的な開催とカリキュラムを柔軟に変えることにより社会の変化に合わせて教育を行っている。</p>	<p>③・2・1</p>	<p>・AIやICTの活用はあくまで手段であり、その先どんな人材になってほしいと思っているかを示し続けていただけるとよいです。最終的には短時間に要点をまとめて、自分の言葉として伝える言語化能力が求められます。</p>
<p>2-1-3 外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を10単位以上開設していること。 【外国人留学生キャリア形成促進プログラム】</p>		<p>設置なし</p>			
<p>小項目2-2 教育課程の実施</p>					
<p>2-2-1 授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技等、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、学校が定めた基準に基づき成績評価を行っていること。</p>	<p>3</p>	<p>授業は講義・演習・実習等、科目の特性に応じた適切な方法で実施している。 シラバスを作成し、授業内容・評価方法を学生に明示している。 成績評価は教育指導要領およびシラバスに基づき、公正かつ厳格に実施しており、小テストや定期試験、実習評価等を組み合わせて総合的に評価している。 また、実習科目においてはルーブリック評価を導入し、評価の客観性・統一性の確保に努めている。</p>	<p><長所> ・多様な授業形態を適切に活用している ・成績評価の基準が明確である ・ルーブリック評価の導入により評価の客観性が向上している <課題> ・授業の質(授業力)のさらなる向上 ・個別学習支援の強化 <解決策> ・授業アンケート結果の活用による授業改善の推進 ・FD活動を通じた教員の指導力向上 ・ICTを活用した個別最適化学習の導入</p>	<p>③・2・1</p>	<p>授業場面の見学をさせていただきありがとうございます。学生がとても楽しそうに学んでいる姿がみられたこと嬉しいですね。先生方のご苦労も多いかと思えます。海外出身の方も多いとのこと。介護の現場もここ5～6年で日本人が減り外国出身の方がとても増えたと聞きました。日本の将来を考えるとますます必要な教育の場だと感じました。</p> <p>・シラバスに基づく多様な授業を展開し、成績評価を公正に行っている。特に実習科目にルーブリック評価を導入し、客観性を確保している。</p> <p>・体験のアクティブラーニングが増えています。その後のフィードバックの質に目を向けていただけると良いと思います。</p>
<p>2-2-2 企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等(以下「実習・演習等」という)の授業を行っていること。また、教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位時間または単位数の総授業時数に占める割合を具体的に設定していること。 【職業実践専門課程】</p>	<p>3</p>	<p>産学連携推進センターと連携し、施設・病院・企業等と連携した実習・演習授業を実施している。 総時間数に占める割合は各学科ごとに設定している。</p>	<p><長所> 介護福祉士科においては、連携する企業・施設との奨学金制度を使い、学びを希望する学生(留学生)への学費面のサポートを行うことで、業界に職業人を輩出している。 <解決策> 連携先の増加</p>		
<p>小項目2-3 単位・卒業認定</p>					
<p>2-3-1 学校の目的・目標及び育成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針(資格・免許等を含む)を学修させる職業能力を含む)を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業を認定していること。</p>	<p>3</p>	<p>卒業認定基準は教育指導要領および学生便覧に明確に定められており、学生に周知されている。 成績評価および単位認定は基準に基づき厳格に運用されており、客観性・公平性の確保に努めている。</p>	<p><長所> ・評価基準が明確であり、学生への周知が徹底されている ・評価の客観性・公平性が確保されている <課題> ・実習評価におけるさらなる標準化</p>	<p>③・2・1</p>	<p>・卒業単位の認識や指導全般に先生方のご尽力を感じます。 ・評価基準、卒業認定基準を学生に周知した上で厳格に運用している。 ・引き続き実習先の施設とも連携しながら進めていただくことを望みます。</p>
<p>小項目2-4 学修成果目標の達成状況</p>					
					<p>・日本人の合格率が高水準とのことで、とても素晴らしいと思えました。例年ですが外国出身の方の合格率が低い状況が続いていますが、言葉の壁と生活</p>

2-4-1 卒業認定方針に明示した学科・コースごとの職業能力(資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得など含む。)の学生の修得状況を把握し、評価していること。	3	資格取得および就職に関する目標を設定し、その達成状況を把握している。資格取得については、教育課程上に明確に位置づけ、国家試験対策授業等を実施している。	<長所> ・資格取得支援体制が整備されている。 <課題> ・国家試験合格率のさらなる向上。 <解決策> ・国家試験対策の早期化および個別指導の強化 ・学修成果データの分析と教育改善への活用		半が正しい人況が正しいといふ。言葉の空にエロの違いと知識・技術の向上と、いくつも対応しなければいけない状況だと思いますが、学生には是非頑張してほしいです。 ・資格取得を教育課程に位置づけ、専門学校に期待されている国家試験合格率、就職率のさらなる向上を目指している。
2-4-2 学生の進路に関する目標を定め、その目標を達成していること。	3	就職率については高い実績を維持しており、進路支援体制も整備されている。	<長所> ・就職支援体制が充実している <課題> ・学修成果の可視化の強化 <解決策> ・卒業生・企業からのフィードバックの活用	③・2・1	・対策の積み重ねができており結果も可視化されてきていると思います。 ・外国人生徒の増加とともに、国家試験合格率の向上は御校の大きなブランディングになると思います。

基準3 学生の受入れ、学生支援

小項目3-1 学生募集及び入学者の選抜、收容定員の管理					
3-1-1 入学者の受入方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、可否を決定していること。	3	入試選考基準や可否の決定基準は明確に定めている。求める学生像や入学者に求める水準等は、アドミッションポリシーとして募集要項に記載し、受験生に明示している。また、入学希望者の状況を鑑み、多様な入試方法を取っているが、選考に際し重視する点は「やる気」と「適性」であることには変わりはない。 学費・諸費用・総合演習費についても正確に分かりやすく伝えている。	<長所> 求める学生像や入学者に求める水準等は、アドミッションポリシーとして募集要項に記載することとあわせて、オープンキャンパスで直接説明するほか、体験授業などをとおして伝える機会を多く取っている。 <課題> 入学希望者の個別対応を強化する中で、個々の課題が多様化し、複雑になる傾向がある。 国の制度も変化があるのでその内容を踏まえて進路相談にのることができる人材育成が必要である。 <解決策> 一人ひとりの状況にあった情報を正確に伝えるための研修はもちろんのこと、正しい情報を常に更新した資料作成とAIの活用により職員が参加者に与える情報が統一されたり、職員が不足していた場合でも情報が提供できる環境をつくる。	③・2・1	・過去数年苦勞されたところで結果が出てます。引き続き個々の課題の多様化や複雑化が続くと思います。継続しての解決策が必要です。ここは経過を追って注視したいところです。 ・求める学生像をアドミッションポリシーに定め受験生に周知している。その他、学費等必要な情報を伝えることで、入学後のトラブル解消の一助となっている。 ・施設奨学生について、各法人で差はあると思うが、実績及び積極的な法人へは、人選面や細かい情報提供をお願いしたい。
3-1-2 学生の受入れは、入学定員に基づき適正に行っていること。	3	本校は、東京都専修学校各種学校協会に加盟し、同協会の定めた学生募集活動のルールに基づいて学生募集を行っている	入学に際しては、希望者や保護者から学習内容、将来性、学費等様々な内容の相談が寄せられるが、教職員各自の専門性を活用して適切に対処できている。		
小項目3-2 多様な学生に対する修学支援					
3-2-1 適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生の修学に関する支援を行っていること。	3	障害のある学生に対しては必要な場合は、合理的配慮を実施している。海外からの留学生へも適切なツールなどを用いて言語のサポートなどを実施している。	<長所> バリアフリーのエントランス、トイレなどを設置している。		・海外からの学生は、日本での生活自体にも不安があるかと思えます。専門職への輩出だけでなく、日本で生活する、働くという動機付けなどにも配慮されている様子が伺えます。その育成への取り組みを伺うと、教育の場で必要なことだと理解できます。 ・経済的支援の必要な生徒、障害のある生徒、留学生等に対してしっかりしたサポート体制があり、修学を支援している。 ・合理的配慮については現場の方が追い付いていない

<p>3-2-2 特に海外からの留学生について適正な在籍管理、進路(就職)指導を行うとともに、日本人学生との交流の機会が確保されていること。 【外国人留学生キャリア形成促進プログラム】</p>	<p>3</p>	<p>教務事務・学生サービスセンターで外国人留学生担当の職員を配置し、研修等にも参加させている。 日々の外国人留学生の指導・支援は担任が主体となっているが、学園本部の留学生支援センターと連携し留学生・職員双方が適宜、サポートを受けられる体制にある。 各種書類・記録の保存は適切におこなっている。</p>	<p><長所> 学園本部に留学生センターがあり、サポート体制が整っている。 <課題> 留学生受け入れ適正校を継続するべく、一層の支援体制の充実が必要である。教職員の留学ビザ更新等に伴う資格取得にも努める。 <解決策> 教務だけでなく学費面や日常生活面も含め、問題が発生した際はもちろん、予測できることに対する早期対策も含め、学校全体で取り組んでいく。 在留資格更新許可申請取次者資格を取得し、留資格更新許可申請を学校が取次として行う。</p>	<p>③・2・1</p>	<p>日本の就業については就職力が高いという点が多いです。学校側からも業界へ働きかけていただけることを期待します。</p>
<p>3-2-3 学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。</p>	<p>3</p>	<p>経済的支援は教務事務・学生サービスセンターが主管している。 学校独自の奨学金制度はないが、日本学生支援機構や介護福祉士等、保育士修学資金の制度、江戸川区介護福祉士育成給付金の紹介や手続きを行っており、利用状況の把握をしている。江戸川区介護福祉士育成給付金には外国人留学生の利用希望者が多い。 教育ローンも日本政策金融公庫の「国の教育ローン」の他、信販会社と提携し低利なローンが利用できる。 学費の分納制度は高校での奨学金予約採用制度を活用した「予約サポート制度」と社会福祉士一般養成科、介護福祉士科に於いては「東京都修学資金貸付制度を利用した分納制度」がある。</p>	<p><長所> 学費の納入等に関しては、「延納・分納」などの制度を設け、就学の継続の支援をしている。 <課題> 経済的に厳しい学生が多く、奨学金を生活費に流用して学費納入が困難となるケースもある。 また、奨学金については卒業後の返還について、初回振替不能率が全国平均より高く、在学中の動機付けに課題を残す。 <解決策> 学費納入状況については学生サービス、運営会議にて細かくチェックし、分納制度利用者や延納となっている学生の早期の問題発見と対応を行っていく。 担任から普段の学生状況もリサーチして支援に活用していく。</p>	<p>③・2・1</p>	<p>・休学、退学の要因がメンタル不調の場合。日本全体でもメンタル休職者は増えている現状がある。健康な状態であっても予防の知識を増やし、学生個々が対策を取っていく必要あり、備えをして社会に出ていく必要があるのではないかと感じている。</p> <p>・休学、退学の理由として、精神疾患、クラス不適應、目的喪失等の説明があったが、それらに対して、専任カウンセラーを配置し、医療機関を運営する等、学生の心身の健康管理に力を入れている。</p> <p>・留学生が多い中で学園が運営する医療機関があることは素晴らしいと思います。</p> <p>・学生ここへのフォローは以前よりも行えていると思います。学生が増えても同様にフォローいただける体制があることを望みます。学校だけで抱え込まず、外部の機関(かかりつけ医など)とも連携いただければと思います。</p>
<p>小項目3-3 学生生活に関する支援</p>					
<p>3-3-1 カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。</p>	<p>3</p>	<p>学生相談室に専任カウンセラーを配置し、週3日(北口校舎で1日、第3校舎で2日)相談できる日を設けている。非常勤のカウンセラーも週2日常駐し、いつでも相談可能な体制を整えている。 学生相談室の利用方法は掲示、学生便覧に記載している他、担任からも告知している。記録は個人情報保護を踏まえ適切に管理している。 卒業生からの相談についても、対応を行っている。</p>	<p><長所> 学校に専任カウンセラーを配属するとともに、本部機能としての滋慶トータルサポートセンターを設置している。 <課題> 入学時に、自己肯定感の低い学生が多く存在している。また、精神的な疾患や発達障害等の既往歴のある学生も増えているため、カウンセラーが抱えるケースが過剰となる懸念がある。 <解決策> 年々、既往歴のある学生の入学が増加し、学生相談室を利用する学生が増えてきている。 カウンセラーのケースが過剰となった場合は学園が運営しているトータルサポートセンターに繋ぐことができるよう対応していく。</p>	<p>③・2・1</p>	<p>・休学、退学の理由として、精神疾患、クラス不適應、目的喪失等の説明があったが、それらに対して、専任カウンセラーを配置し、医療機関を運営する等、学生の心身の健康管理に力を入れている。</p> <p>・留学生が多い中で学園が運営する医療機関があることは素晴らしいと思います。</p> <p>・学生ここへのフォローは以前よりも行えていると思います。学生が増えても同様にフォローいただける体制があることを望みます。学校だけで抱え込まず、外部の機関(かかりつけ医など)とも連携いただければと思います。</p>
<p>3-3-2 留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っていること。</p>	<p>3</p>	<p>学園グループが運営する慶生会クリニックと連携して学生の健康管理の実施、学校医の選任をおこなっている。 定期健康診断の受診状況は慶生会クリニックの連携で把握できており、再検査が必要な学生への対応もできている。</p>	<p><長所> 学園で運営する医療機関がある。 <課題> 健康診断の実施結果から再検査が必要な学生が多いため、結果を放置してしまう学生が多いため。2次検診の受診について健康管理の重要性の観点から啓蒙が必要であると考えます。 保健室は整備しているが専門職員の配置は行っていない。 <解決策> 学内に看護師や作業療法士、公認心理師の資格を持つ職員がおり、対応が必要な時は協力を得ている。また慶生会クリニックにて体調不良学生の早期対応を図っている。 健康診断2次検診の受診促しを担当者と担任で徹底していく。</p>	<p>③・2・1</p>	<p>・休学、退学の理由として、精神疾患、クラス不適應、目的喪失等の説明があったが、それらに対して、専任カウンセラーを配置し、医療機関を運営する等、学生の心身の健康管理に力を入れている。</p> <p>・留学生が多い中で学園が運営する医療機関があることは素晴らしいと思います。</p> <p>・学生ここへのフォローは以前よりも行えていると思います。学生が増えても同様にフォローいただける体制があることを望みます。学校だけで抱え込まず、外部の機関(かかりつけ医など)とも連携いただければと思います。</p>
<p>3-3-3 学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。</p>	<p>3</p>	<p>学園グループが運営する慶生会クリニックと連携して学生の健康管理の実施、学校医の選任をおこなっている。 定期健康診断の受診状況は慶生会クリニックの連携で把握できており、再検査が必要な学生への対応もできている。</p>	<p><長所> 学園で運営する医療機関がある。 <課題> 健康診断の実施結果から再検査が必要な学生が多いため、結果を放置してしまう学生が多いため。2次検診の受診について健康管理の重要性の観点から啓蒙が必要であると考えます。 保健室は整備しているが専門職員の配置は行っていない。</p>	<p>③・2・1</p>	<p>・休学、退学の理由として、精神疾患、クラス不適應、目的喪失等の説明があったが、それらに対して、専任カウンセラーを配置し、医療機関を運営する等、学生の心身の健康管理に力を入れている。</p> <p>・留学生が多い中で学園が運営する医療機関があることは素晴らしいと思います。</p> <p>・学生ここへのフォローは以前よりも行えていると思います。学生が増えても同様にフォローいただける体制があることを望みます。学校だけで抱え込まず、外部の機関(かかりつけ医など)とも連携いただければと思います。</p>
<p>3-3-4 学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。</p>	<p>3</p>	<p>学生のキャリア支援は「産学連携推進センター」が担っている。求人票の獲得はもちろん、履歴書の添削、面接練習を含めた就職試験に対する準備を個別に行っている。 それらの情報は学生ポータルサイトを通じて周知されている。</p>	<p><長所> 単純に就職の支援だけでなく、同窓会活動や転職などを含めたキャリア支援を実施している。 <課題> 同窓会への参加者を増やしていくことが必要である。</p>	<p>③・2・1</p>	<p>・休学、退学の理由として、精神疾患、クラス不適應、目的喪失等の説明があったが、それらに対して、専任カウンセラーを配置し、医療機関を運営する等、学生の心身の健康管理に力を入れている。</p> <p>・留学生が多い中で学園が運営する医療機関があることは素晴らしいと思います。</p> <p>・学生ここへのフォローは以前よりも行えていると思います。学生が増えても同様にフォローいただける体制があることを望みます。学校だけで抱え込まず、外部の機関(かかりつけ医など)とも連携いただければと思います。</p>

小項目3-4 学生の自主的な学習等の促進に対する支援					
3-4-1 学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取り組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。	3	年に数回の学生面談を実施することにより学生の学習状況を把握し、補習授業や個別指導等を実施している。同様に留年・退学希望等の兆候を把握して対応している。また、シラバスの活用により学習目標を明確化し、自主的な学習を促進している。	<長所> シラバスに加え、コマシラバスを活用して、学習成果を向上させている。 <課題> 学習意欲の個人差が年々大きくなってきており、学習者像を描くのが困難になってきている。 <解決策> ・個別指導および学習支援の個別最適化による強化 ・ICTやAIを活用した学習支援の拡充	③・2・1	・学生面談を定期的に行い学習状況を把握するだけでなく、退学希望の兆候を早期に把握し対応している。 ・地域を知る意味でもボランティア活動の積極的な取り組みは評価されます。 ・西葛西図書館との連携やなごみの家葛西南部でのボランティア、入学式での合唱での学生さんたちとの関わりは、地域の「さざなみ会」参加者にとって一生の思い出になりました。
3-4-2 正規の授業時間以外に行われる、課外活動など学生の自主的な活動を充実させるため、適切に支援していること。	3	学園共通の部活動で希望者は登録することができる。近隣の西葛西図書館との連携や江戸川区でのボランティア活動、課外活動への参加を推奨し、主体的な学びの機会を提供している。	<長所> 学園主体の部活動がある。江戸川区より委託されている「なごみの家葛西南部」に様々なボランティア案件がある。 <課題> 授業以外の活動へ参加する学生が固定化している。 <解決策> ・学生主体の「ボランティアサークル」の活動支援 ・ボランティア案件の告知の強化		・授業の音声を利用したAIの活用法についてですが、帰宅後、こどもと同じクラスの友人2名に聞いたところ「知らない」ということでした。二人とも興味を示していましたので社会福祉科にもAIの活用法について再度お話しただければと思います。
基準4 教員・教育実施組織					
小項目4-1 教員の配置、募集、採用					
4-1-1 教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員について、採用基準等を整備し、適切に運用していること。	3	採用基準・採用手続きは、学園にて裁定されている採用マニュアル等で明確化されている。そこでは、優秀な人材を採用するための募集活動・募集計画が立てられ、実行することで適正に配置している。新卒採用については学園本部が中心となり、採用広報や、採用試験を実施している。業界経験者等の中途採用の募集は学校が窓口になるが、採用決定については学園本部も関与し、法令上の基準等が適切であるかを確認している。	<長所> 学園本部機能があることで、採用に関する手続きや基準等の確認が漏れなくできている。 また、グループ校の中での要件のある教員等の情報を確認することができる。 <課題> 専門分野における人材確保の難しさ <解決策> ・業界ネットワークを活用した人材確保 ・非常勤講師の活用拡大 ・採用チャンネルの多様化	③・2・1	・教育界の人材不足、専門分野の人材確保が難しい中、学園本部を中心に、組織的な募集、採用活動が行われている。 ・貴校は卒業生が教職に戻ってこられたり、活躍されている様子を伺います。相互の理解があってプラスの面も多いと想像します。
小項目4-2 教員の組織編制等					
4-2-1 学校の目的に応じた教育を実施するために、適切な業務分担、責任体制のもとで分野の区分ごとに、教員の組織体制を整備していること。	3	教育活動を円滑に実施するため、業務分担および責任体制を明確にした組織体制を整備しており、事業計画に明記している。教員と職員が連携し、教育目標達成に向けた協働体制が構築されている。	<長所> ・組織体制および役割分担が明確である ・教職員間の連携が図られている <課題> ・組織横断的な連携のさらなる強化 ・役割と業務量のバランス <解決策> ・定期的な情報共有会議の実施 ・組織横断プロジェクトの推進 ・業務の選択と集中	③・2・1	・業務分掌化されていることに評価されます。 ・教員と職員の役割分担、連携が明確で組織的に運営されている。
小項目4-3 教員の資質の向上					

4-3-1 学校の授業の内容及び方法の改善を図るためのFD(Faculty Development)など組織的な取組や教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	3	教員の資質向上のため、学園で開催するFD研修や外部研修への参加を推進している。	<長所> ・学園内で研修体制が整備されている ・実務に即したスキル向上が図られている <課題> ・研修成果の教育現場への還元 <解決策> ・研修成果の共有・展開の仕組み構築 ・FD活動の体系化	③・2・1	のるが、子内の示有体制が整備され、止未と連携した実務研修を実施する等、知識・希望の向上に努めている。 ・教職員の皆さんの意識改革が進まれたとお話がありました。学生の獲得や指導へのスキルアップなど、様々な変化を推進していく風土づくりができておられるのだと想像いたします。 ・ぜひ職能団体でも各研究会でもよいので連携いただけると有難いです。
4-3-2 教員の専攻分野における実務に関する知識・技術、技能を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的にしていること。 【職業実践専門課程】	3	企業等と連携した実務研修を実施し、専門分野の知識・技能の向上を図っている。必要に応じて、各協会への学会への参加にて教員の知識の幅を増やしている。	<課題> ・教職員の意欲により、研修への参加姿勢にばらつきがある		
4-3-3 教員の授業及び指導力を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的にしていること。 【職業実践専門課程】	3	指導力においては、学園内外から講師を招き、定期的に研修を行っている。	・クラスマネジメントを強化し、学生たちが自立協働できる仕組みを構築している。		

基準5 教育環境

小項目5-1 教育環境の整備点検、改善等			③・2・1	・介護施設などの最新機器やICT化などを意識した環境づくりに関心致します。実際の現場の方が間に合っていないこともあろうかと思えます。 ・安全、安心な教育環境に向け、定期点検を行っている。
5-1-1 専修学校設置基準及び関連法令に基づき、教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。(補修、更新含む)	3	教育課程の実施に必要な施設・設備を整備し、教育内容に応じて適切に活用している。 また、施設・設備については定期的に点検を行い、必要に応じて改修・更新を実施している。		
小項目5-2 安全対策、防災組織			③・2・1	・防災意識は特に外国人学生にも、必要な知識かと思えます。地域の自治会や施設とも協力して避難訓練など積極的な取り組みをお願いいたします。 ・学校安全計画に基づいて防災訓練等を実施している。
5-2-1 学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	3	学校安全計画を策定し、防災訓練等を実施することで安全対策を講じている。 災害時および日常の安全管理において適切に対応できる体制を整備している。		

基準6 教育活動の基盤と情報の公表

小項目6-1 中期事業計画と財務基盤			③・2・1	・将来ビジョンを掲げての日頃のお取り組みがよくわかります。学生の確保など、少子化の中、様々なご苦勞がおりかとお察しいたします。 ・少子化や学生を送り出す各種業界の今後の変化をにらみながら中期事業計画を策定している。 ・事業計画を策定していく中で留学生が多く苦勞も多いと思いますが、財務基盤が確保できていることは素晴らしいと思います。
6-1-1 当該専修学校の中期事業計画又は設置法人の中期事業計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。	3	本校では、中期事業計画を策定し、教育理念・教育目標の実現に向けた具体的施策を明確に位置付けている。事業計画には、学科運営、教育内容の充実、学生募集、就職支援等の各分野における目標および実行計画が含まれている。 また、計画は単年度ではなく中長期的視点で策定されており、進捗状況については定期的に会議体において確認・検証を行っている。		

6-1-2 当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。 【修学支援新制度機関要件の確認】 【外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	3	本校は、中期事業計画に基づき安定した教育活動を実施するための財務基盤を確保している。収支計画を策定し、適切な予算管理のもとで運営を行っている。 また、学生募集の強化や教育の質向上により安定的な収入確保に努めている。	<長所> ・安定した財務基盤が確保されている ・計画的な予算管理が行われている <課題> ・少子化による入学者減少リスク ・教育投資とのバランス <解決策> ・多様な収入源(リカレント教育・留学生等)の確保 ・コスト構造の見直しと効率化 ・中長期的な財務シミュレーションの実施		
小項目6-2 学校運営					
6-2-1 学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること。	3	本校では、学校運営に必要な組織体制を整備し、業務分担および責任体制を事業計画書で明確化している。 各会議や研修で教員と職員が連携し、教育活動および学校運営を円滑に実施する体制が構築されており、校長のリーダーシップのもと卒業進級判定会議をはじめ、様々な意思決定および執行管理が行われている。	<長所> ・組織体制および責任分担が明確である ・教職員の連携体制が確保されている <課題> ・部門間連携のさらなる強化 ・意思決定の迅速化 <解決策> ・横断的会議体の活用による情報共有強化 ・業務フローの見直しによる意思決定の迅速化 ・ICT活用による運営効率化	(3)・2・1	・学校運営という中に、人材育成として専門職を輩出する役割を持ちながらのお取り組みは、想像を超える難しさもあると思いますが、学校一丸となっております。 ・学校運営において様々な場面で経営陣、学校長のリーダーシップが求められるが、組織体制が整備されていることで適切に意思決定がされている。
6-2-2 学校運営に必要な知識・技能等を身に付け、意欲及び資質を向上させるためにSD(Staff Development)活動などの取組が行われていること。	3	教員の専門性向上のための数々の研修が設定されている。教務研修・専任研修を実施し、教員の専門性を向上させる研修を行っている。また教員の研究活動・自己啓発への支援は、可能な限り推進している。また、新任講師、授業アンケート時における課題講師において、授業見学及びフィードバックを行っている。	<長所> ・研修体制が整備されている ・計画的な能力開発が実施されている <課題> ・研修内容の実務への反映 ・非常勤講師をはじめ個々のスキル差への対応 <解決策> ・研修成果の共有・評価制度の導入 ・非常勤講師を含めた個別研修計画の策定 ・OJTと連動した実践的研修の強化		
小項目6-3 学校評価の実質と改善活動					
6-3-1 学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等外部からの意見を反映するなど、関連企業等団体、地域社会等からの意見を当該専修学校の運営やその改善・向上において活用していること。 特に職業実践専門課程においては、教育課程編成委員会を年2回以上開催していること。【職業実践専門課程】	3	本校では、自己点検・自己評価結果を報告書として取りまとめ、ホームページ等を通じて公表している。 また、教育活動や学校運営に関する情報についても積極的に公開し、社会への説明責任を果たしている。 さらに、学校関係者評価委員会を設置し、産業界や地域社会の意見を取り入れ、教育活動の改善に活用している。	<長所> ・情報公開が適切に行われている ・外部評価を活用した改善体制が整備されている <課題> ・情報発信の質・量のさらなる向上 ・産業界との連携強化 <解決策> ・Web・SNS等を活用した情報発信の強化 ・産業界との連携機会の拡充 ・卒業生・企業からのフィードバックの体系化	(3)・2・1	・自己点検や評価委員会など客観的な評価のもとに取り組んでおられると思います。 ・自己評価結果をHPで公表するだけでなく、産業界や地域社会の意見を積極的に取り入れる仕組みが整っている。
6-3-2 学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表していること。	3	それぞれの委員会で出た結果・意見書は、ホームページを通じて公表しており、学科会議や運営会議を通じて次年度の教育課程の作成や事業計画の作成において組織的・継続的に検討されている。	<課題> 結果(議事録)や意見書に関しての公表はもちろんしているが、具体的にどの部分をどの意見によってどう変えた、というような公表の仕方は困難である。 <解決策> 自己点検評価に改善部分を記載することで、その部分が前年の委員会の意見によって改善されたことがわかるような内容で改訂をしていきたい。		
6-3-3 学校評価の結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的にしていること。	3	評価結果に関する改善の検討・意思決定は学科会議を通じた検討と運営会議での意思決定を実施している。また、次年度の事業計画作成の会議に反映している。	<課題> 教科課程・事業計画の作成において、どの部分が学校評価の結果に基づくものなのかを区別することは困難である。 <解決策> 学科会議や運営会議、事業計画検討会議の際に、議題に学校評価の結果による改善の提案であることが明確になるような記載を検討したい。		
小項目6-4 社会からの理解と情報の公表					
・自己点検や評価委員会など客観的な評価のもとに取り組んでおられると思います。					

<p>6-4-1 当該専修学校の教育活動、学修成果、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表していること。</p>	<p>3</p>	<p>本校では、自己点検・自己評価結果を報告書として取りまとめ、ホームページ等を通じて公表している。 また、教育活動や学校運営に関する情報についても積極的に公開し、社会への説明責任を果たしている。</p>	<p><長所> ・情報公開が適切に行われている</p> <p><課題> ・情報発信の質・量のさらなる向上</p>	<p>③・2・1</p>	
<p>6-4-2 教育目的・目標の達成状況や活動状況について関連する教育機関、産業界等をはじめ、社会全体からの理解を得るよう取り組んでいること</p>	<p>3</p>	<p>さらに、学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会を設置し、産業界や地域社会の意見を取り入れ、教育活動の改善に活用している。</p>	<p><長所> ・外部評価を活用した改善体制が整備されている</p> <p><課題> ・産業界との連携強化</p>		